

はじめに

新年度がスタートしました。各学校では新しい体制のもと、教職員と力を合わせ学校ビジョンの達成に向け、学校経営に取り組んでください。

本市の教育施策について

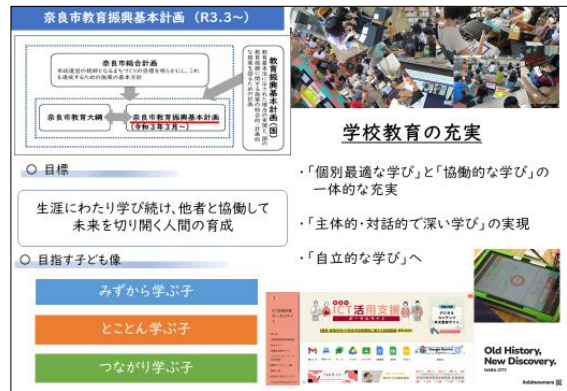
本市では、令和3年3月に「奈良市教育振興基本計画」を策定し、「生涯にわたり学び続け、他者と協働して未来を切り開く人間の育成」を目標に、「みずから学ぶ子」「とことん学ぶ子」「つながり学ぶ子」の3つの子ども像の実現を目指しています。

学校教育の充実については、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現が国の方向性として示されています。

本市では全国に先駆けて一人一台端末を活用し、「校務デジタル化の支援」や「教育のDX」を積極的に推進しています。

教育DXを推進するコンテンツとして、AI学習ドリルの「キュビナ」を導入しています。今年度から、小学校3年生を対象学年に追加しました。「キュビナ」は子どもたちの間違いや習熟度に応じた問題を出題し、苦手克服を支援してくれる「デジタルドリル」です。ただ、これまでの紙のドリルに置き換えるのではなく、教員も子どもの学びの進捗を把握するとともに、AI学習ドリルの特性や効果を最大限活用した授業づくりに取り組んでください。

学習場面の活用においても、小学校と中学校では違いが見られます。小中一貫教育の観点から、校区の小中間で授業を見あうなど、各学校でのICT端末やデジタルコンテンツの活用状況について確認し、活用の推進に努めてください。



デジタル教科書について

今年度から、小学校5年生から中学校3年生まで、外国語（英語）においてデジタル教科書が正式に導入されました。デジタル教科書には、音声や動画も組み込まれ、授業内に留まらず授業外でも様々な活用が期待されます。これからの学びの在り方を考え、実践していくうえでの「起点」になるものです。

実証事業に取り組んだ本市の学校でも、教師用デジタル教科書は、「掲示などがスムーズで、授業準備の効率が良くなった」と聞いています。また、学習者用デジタル教科書も、「開くまでひと手間かかるものの、子ども達は集中して楽しく取り組む姿が見られた。」とのことでした。



デジタル教科書は、教材研究することで魅力的な授業ができるということです。各学校においても、紙の教科書の持ち帰りを不要にするなど、日常の当たり前を見直し、積極的な活用をお願いします。

このように、「学びの在り方」が急速に変わりつつある中、教員の「指導の在り方」も変えていかななくてはなりません。教員による一方向的な、知識伝達の授業ではなく、子ども同士の学びを大切に、子どもに寄り添う伴走者として「コーチング」の役割が求められています。「子どもたち主体の授業に改善していくことが、業務改善そのものである」ことを、学校の共通の認識としてください。

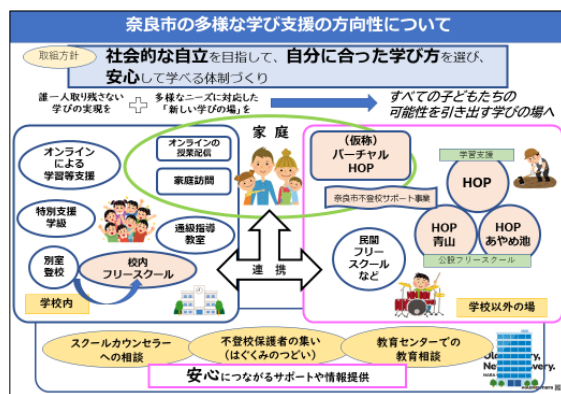
### 多様な学びについて

本市では、誰一人取り残さない「多様な学びの支援」の実現を目指しています。

多様なニーズに対応した学びの場を実現するため、今年度も、「通級指導教室の拡大」（44 教室）、「校内フリースクールの拡大」（4校）、「公設フリースクール HOP 青山・HOP あやめ池の充実」に取り組んでいきます。

さらに、今年度は「バーチャル HOP」を開設します。メタバースの技術を活用して、対面でのコミュニケーションを苦手とする子どもたちに、新たな居場所となる空間を提供していきます。

これらを通して、すべての子どもたちが、「社会的な自立を目指して、自分に合った学び方を選び、安心して学べる体制づくり」の実現を目指します。



### 若手教員の育成について

本市の教員の年代別構成は、7年前と比較しても50歳以上のベテランの年代が減り、若い世代が増えています。

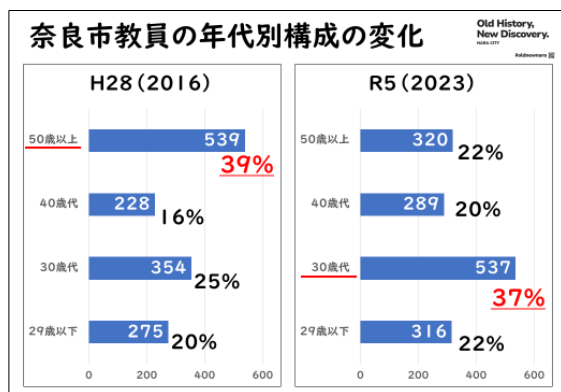
今年は、小学校47名、中学校10名、合わせて57名の初任者に着任いただきました。

初任者を含め、若手教員の育成にはいろいろと尽力いただいているところだと思います。

報道によりますと、文部科学省が若手教員の指導にあたるポストを新設する方針を固めたとあります。中央教育審議会でも議論され、近く示される中央教育審議会特別部会の素案にも盛り込まれました。国においても、若手教員の育成を喫緊の課題として捉えています。

本市では、若手教員を対象に「教員個別訪問研修」を実施しています。また、初任者及び講師対象にオンライン研修「ナラメイト」を実施するなど、若手教員の育成にきめ細やかに対応しています。

個別訪問研修担当の特任指導主事からは、「謙虚に学ぶ姿勢のある教員もいれば、そうでない教員もいる。」「指導という形ではなく、提案という形でアドバイスした方が伝わる。」などの声を聞



いており、工夫しながら個に応じた指導をしているとのこと。

教員としての志や心意気は時代を超えて不変であると思います。忙しい中ですが、日々の授業の様子を見ていただき、教員ひとりひとりに声を掛け、教員の持ち味を生かせる環境を整え、チーム学校として、若手教員の育成に力を注いでください。

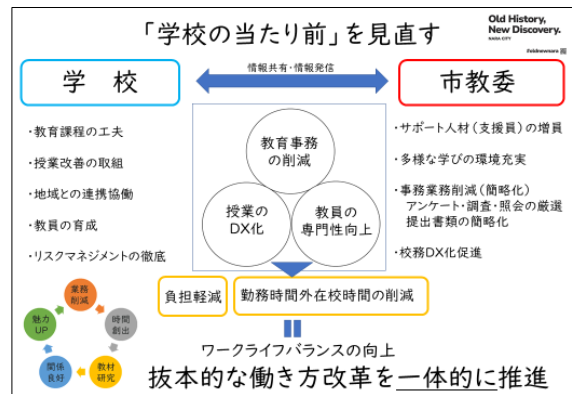
### 働き方改革について

教育委員会では、「教育事務の削減」、「授業のDX化」、「教員の専門性の向上」に向けて、教職員の負担を減らし、勤務時間外在校時間の削減を図ることで、子どもたちにより良い教育を提供できるよう、働き方改革を推進していきます。

具体的には、スクールサポートスタッフや部活動指導員など支援員の充実をはじめ、教育事務業務を減らせるよう、校務のDX化を推進しサポートしていきます。

各学校においても、学校の実態に応じて様々に工夫し、「まずはやってみる」「できることから取り組んでいく」という姿勢で臨んでください。また、効果のあった取組については、事務局にも報告ください。各学校にも共有していきます。

学校と教育委員会が両輪となり、家庭や地域と課題解決の重要性や目指すべき理念を共有し、取組を進めていきます。



### おわりに

これからの気温の上昇や気候変化に伴い、熱中症対策や警報発令時の対応などが必要となります。学校の責任者として、子どもたちの安全管理を図り、注意喚起を行うとともに、教職員の服務規律の徹底にも取り組んでください。